

令和7年度第1回土浦地域医療構想調整会議 会議録

1 日 時 令和7年6月16日（月） 18:30～19:35

2 場 所 WEB開催

3 出席者 別添出席者名簿のとおり

4 議事等

（1）定足数の確認

事務局司会は、土浦地域医療構想調整会議委員21名全員（うち代理出席4名）の出席があり、地域医療構想調整会議設置要綱（以下「要綱」という。）第7条第2項の規定に基づく定足数を満たしていることを報告した。

（2）議長の選任

要綱第7条第1項の規定に基づき、会長である塚田委員が議長に就いた。

（3）会議録署名人の指名

議長は、要綱第10条第1項の規定に基づく会議録署名人に、小畑委員及び鈴木委員を指名した。

（4）議事

① 令和7年度の地域医療構想推進スケジュールについて

事務局より、資料1に基づき、今年度の地域医療構想調整会議及び関連する会議の開催スケジュールや協議予定内容について説明した。

② 令和7年度医師派遣調整に係る医師派遣要望調査について

事務局より、資料2に基づき、調査の概要、調査結果及び医療人材課へ提出する要望案について説明した。また、今回派遣を要望する各病院から以下のとおり補足説明があった。

協議の結果、案のとおり要望することが承認された。

<補足説明>

■霞ヶ浦医療センター：鈴木委員

- ・ 消化器内科及び消化器外科の常勤医が不在となって一年以上が経過した現在も腹部救急の受け入れが滞っている。現在は、高齢者救急などを積極的に受入れているが、中には腹部疾患の患者もおり、また、二次救急や下り搬送の受け入れも積極的に受けたいところだが、消化器内科常勤医の不在によって思うように機能できていない。
- ・ 昨年度、消化器内科医1名の派遣を要望したが、県地域医療対策協議会から、1名のみの派遣では機能しないとの意見があったため、今回は2名を要望した。指導施設として認定された場合、指導医が1名いれば国立病院機構内の専攻医の派遣も可能になることから、今年度も派遣を要望する。

■土浦協同病院：広岡委員

- ・ 麻酔科の常勤医は、2023年度から3名減り、現在7名。常勤医の不足によって全身麻

酔手術が滞り、予定手術の入室時間が玉突きで遅れ、働き方改革に逆行している状況。

- ・常勤医が少ない状況下において、インターバル確保の影響により夜間の緊急手術が受けづらくなっており、さらに、回りまわって日中の予定手術を入れづらい状況になっている。
- ・手術件数に対して常勤医の数が見合わないため、この2年ほどは、非常勤医師を多く雇わざるを得ない状況が続いているため、麻酔科常勤医を最低1名は確保したい。

■石岡第一病院：吉野委員

- ・内科医が高齢化しておりマンパワーが足りない。昨年度、自治医科大学から義務年限内の医師1名の派遣を受けたが、当該医師は今年度別の病院へ異動。代わりに別の内科医1名の派遣を受けているが、就業時間に制限がありフルタイム働くことができない。内科の医師派遣を通じて、救急医療の一層の充実を図りたい。

■山王台病院：幕内委員

- ・石岡共立病院からの病床統合によって救急要請数が増えている。現状は、救急対応医師のほとんどが外来及び病棟業務と兼務している。応需率の向上を図り、地域の救急要請に対応できるようにするため、救急医の充足を図りたい。

<質疑応答・意見など>

■医師の働き方改革を受けて、大学病院から各病院への医師派遣状況は如何か。(塚田会長)

→当院は、都内（昭和大学）からの派遣がほとんど。常磐線沿線ということもあり、今のところ派遣はしてもらってはいるが、近くの筑波大学からの派遣は非常に貴重。(幕内委員)

→麻酔科に関しては筑波大学からの派遣に頼っている。さらに、派遣医師の知り合いの非常勤医師を探してもらっている。県内に麻酔科医師は多くないと思うので、大学との付き合いが大事だと思っている。(広岡委員)

→県外からの転居を伴う派遣は難しいため、筑波大学に依頼する面が多いが、専攻医の派遣は国立病院機構経由で依頼できると思う。産婦人科当直は、腹部救急に関連する患者が多いため、筑波大学からの派遣を希望する。(鈴木委員)

→常勤医師に関しては大学からの派遣は難しいと思っているが、非常勤医師に関しては筑波大学、東京医科大学等からの派遣を受けている。(吉野委員)

■協議を通じて医師が足りないということを改めて感じた。将来、少子化に伴い医師になる人が少なくなる10年先、20年先を見据え、子どもたちに対してアピールしてどのように医師を増やしていくかということについても考えていただけるとありがたい。(下田委員)

③ 土浦医療圏内の救急医療提供体制について

土浦医療圏内の救急医療に係る現状や課題について共有し、今後の方策について検討する材料とするため、事務局より、資料3に基づき、昨年度の地域医療構想調整会議における意見交換結果や医療機関別の応需率の推移等に関するデータについて説明し、各医療機関や消防本部における救急医療の現状や課題等について意見交換を行った。

<各医療機関・消防本部の現状・課題>

■土浦協同病院：広岡委員

- ・当院は三次救急への特化を図ろうとしており、消防にもお願いしているところ。看護師不足のため、全ての病床を稼働できるわけではなく、救急のＩＣＵも全て開けられず、すぐ頭打ちとなり、受け入れを断らざるを得ないことが増えている。今後ＩＣＵの運用方法を見直し、可能な限り速やかに受け入れられるよう、体制を整えている。消防で二次救急と三次救急の区別を行うことは難しいと思うが、消防から当院へ受け入れ照会が来ても、他の二次救急医療機関をあたるよう断るケースもある。

■霞ヶ浦医療センター：鈴木委員

- ・「専門外」を理由とした不応需の原因には腹部救急がかなり含まれていると思う。また、当院は１人当直体制のため、手術が長引くことで救急要請を断らざるを得ない事例が多くあると思われる。
- ・日中の救急や土浦協同病院からの下り搬送を積極的に受け入れていきたいと考えている。

■神立病院：平塚委員

- ・内科に関しては、日中はある程度受け入れ可能だが、夜間は非常勤医師に当直を依頼しているので難しい。
- ・整形外科に関しては、土浦協同病院やその他医療機関において対応が困難であれば、手術前に当院へ相談していただければ大抵の症例は対応できる。

■石岡第一病院：吉野委員

- ・平日の日勤帯は常勤医師で対応している。夜間・休日に関しては、非常勤医師が多く、なかなか救急を受けてもらえないため、積極的な受け入れについて働きかけている。

■山王台病院：幕内委員

- ・石岡共立病院からの病床統合前は、満床を理由とした不応需が多かったが、病床統合後は受け入れが増えている。夜間に関しては２名体制で対応していても救急車が何台か重なりと断ることがあるが、余裕がないわけではない。

■県南病院：塚田会長

- ・当院は脳神経外科の常勤医師が３名いるが、内科・呼吸器内科・整形外科は１名のため、脳神経外科以外は救急車対応が難しい。
- ・脳神経外科に関しては、土浦協同病院や霞ヶ浦医療センターと医師同士が直接連携し、受け入れの調整などを行っている。

■土浦市消防本部：堀本委員

- ・令和６年中の救急車出動件数は、令和５年と比較し９８件減の８，９６２件で高止まり。現場到着時間は平均９．４分（令和５年は本県１０．２分、全国１０分）。病院到着時間は、令和６年が平均４３．２分（令和５年は本県４７．７分、全国４５．６分）。土浦市は県や全国と比較して早く傷病者の元に出動し、医療機関へ搬送している。医療機関には受け入れへの協力に感謝申し上げる。
- ・搬送件数全体のうち８７％が手配回数２回までで搬送先が決定している（７１．３％が１回、１５．７％が２回の手配）。

■中央大祢整形形成外科：大祢委員

- ・救急受け入れ要請がある場合は受け入れるようにしているが、人手が足りず断ってしまうことがあるのが現状。

＜質疑応答・意見など＞

■土浦市消防本部において、令和6年から令和7年の年末年始のインフルエンザの流行による救急搬送の状況はどうだったか。次の冬を迎えれば同じことが起こる可能性がある。また、昨年12月に開始した緊急性の低い救急搬送における選定療養費徴収制度について、新しい報告があればお願いしたい。(塚田会長)

→年末年始の救急搬送は、県外や水戸以北へ搬送するケースがあったが、ほとんどは土浦協同病院や霞ヶ浦医療センターに対応していただいた。本日(令和7年6月16日)現在の救急搬送件数は、昨年同時期比で226件減となっている(令和6年:3,906件→令和7年:3,680件)。また、選定療養費徴収制度が開始した昨年12月2日から本年5月31日までの救急搬送件数は、昨年同時期比で241件減となっている。(堀本委員)

■昨年度の協議で挙げた「施設に入所する高齢者が退院後、施設での受け入れがされるような調整が必要」という課題について、施設によって受け入れに対する考え方に差がある。病院が満床となって救急患者を受けられない状況にならないために、患者が積極的に施設に戻って来られるよう、施設間で話し合いを進めていきたい。(平塚委員)

→当院で高齢者の退院が長引く原因は、遠方から受け入れた患者で家族がなかなか来院してくれない、入院時点で介護保険の申請やケアマネジャーが決まっていなかったといったケースが多いと考えられる。(鈴木委員)

以上をもって全ての議事が終了したので、議長は閉会の宣言をした。

上記を確認するため、会議録を作成し、会議録署名人が署名する。

令和7年7月29日

土浦地域医療構想調整会議会長

塚田篤郎

会議録署名人

鈴木祥司

会議録署名人

小畑敦史

令和7年度第1回土浦地域医療構想調整会議出席者名簿

(敬称略)

区分		氏名	役職名	備考
医療関係団体	医師会・病院協会	塚田 篤郎	土浦市医師会長 茨城県病院協会長	
	医師会	小林 雅人	石岡市医師会長	
	歯科医師会	沼尻 道夫	土浦石岡歯科医師会長	
	薬剤師会	小畑 敦史	土浦薬剤師会長	
	看護協会	宮本 佳代子	茨城県看護協会土浦地区理事	
保険者		榆木 宏史	筑波銀行健康保険組合常務理事	
福祉関係団体		宮嶋 謙	かすみがうら市社会福祉協議会長	(代理) 事務局次長 豊崎 淳一
介護事業者		平塚 利子	社会福祉法人青洲会理事長	
住民代表		下田 衛	土浦市地区長連合会長	
市町村		安藤 真理子	土浦市長	(代理) 保健福祉部長 水田 和広
		谷島 洋司	石岡市長	(代理) 子育て健康部長 吉澤 房江
基幹病院		広岡 一信	総合病院土浦協同病院長	
		鈴木 祥司	霞ヶ浦医療センター院長	
		平塚 圭介	医療法人社団青洲会理事長	
		吉野 淨	石岡第一病院長	
		幕内 幹男	山王台病院長	
		塚原 靖二	土浦厚生病院長	
		工藤 耕太郎	豊後荘病院長	(代理) 企画課長 藤枝 悟
		大祢 英昭	中央大祢整形形成外科院長	
保健所		薄井 真悟	土浦保健所長	
学識経験者	消防	堀本 良博	土浦市消防本部消防長	